



問い合わせ先
中央図書館
0968(25)1111

嶋屋日記の天体

古来より、天体の異変は何かを訴えかけているものとして多くの人々に注目されてきました。隈府町の商人が書いた記録「嶋屋日記」には、彗星や流星、日食など天体に関する記述が数多くあります。今回は、貞享2（1685）年の「火玉」について紹介します。

2月20日の晩5つ（午後8時前後）に火の玉のようなものが飛んだと記されています。「松明数千把とますがごとく」とあり、とても明るく明るものだったことがわかります。私たちの想像する、墓場などに飛び火の玉ではなく流星・隕石の類いと考えられます。



「嶋屋日記」の火玉の記述

これが「天下同時」であったことを示すように、各地のさまざまな記録にも同様の記述が見られます。

①「徳川実紀」(江戸幕府公式記録)「流星大き満月の如くにて。東南より西北に飛。その声雷の如し」
②「改作所旧記」(加賀金沢藩士編輯)貞享2年2月22日の5つごろ、「光り物」があり「惣一ぺんにひかり申様」

【参考文献】
・「徳川実紀」第4編「常憲院殿御実紀」巻十一、明治37・40年、経済雑誌社
・高沢忠順編「改作所旧記」中、昭和14年、石川県図書館協会



問い合わせ先 人権啓発課
0968(25)7209

7年目の被災地を訪れて

菊池市地域人権教育指導員 宮川伊十

2月24日から26日までの3日間、都市間交流事業で若手県庁職員を訪問する機会に恵まれた。乱気流にもまれながら降り立った花巻空港は一面真っ白。積雪30センチ、最低気温マイナス15度の中、22名の訪問団を寒く迎えていただいた。

2日目の研修で、北上山地を越え、東日本大震災で大きな被害を受けた釜石市・大槌町を訪問することができた。峠を越えて三陸海岸に近づくと、仮設住宅が目につくようになり、7年前の震災が現実として目の前に現れた。山裾の奥深くまで津波が押し寄せ、町や村を飲み込んでいった傷跡が未だに残っている。やがて紺碧の穏やかな海が見え始めるにつれ、更地が広がり、住宅もまばらな釜石市に到着。ガイドさんの説明で、この街がどんな状況になり、どれだけ多くの人が犠牲となったかを具体的に知ることができた。時折涙ぐまれながら話されるガイドさんの言葉に胸がしめつけられるようであった。ただ1つの救いは、「釜石の奇跡」と言われる「津波でんでんこ」の取り組みである。釜石市の小・中学校では、震

災の8年前から防災教育に取り組み「どんな津波が襲ってきてもできることがある。それは逃げる」と徹底して教えられた。特に中学生には「君たちは守られる側ではなく、守る側だ。自分より弱い立場にある小学生や高齢者を連れて逃げるんだ」という教育があった。この教えがあったからこそ、まず中学生が行動を起こし、小学生の手を引き、おんぶして高台へと走った。それを見た大人たちも走った。日常から「家族のこととは心配するな。家族も逃げる」という教えが深く浸透していた。小・中学生の生存率は、99・8%。欠席および迎えに来られなかった家庭の5人が尊い命を失った。その中の1人の少女は、自宅裏のおぼあちゃんに声をかけ、一緒に逃げる途中で犠牲となった。子どもたちは、次の「避難の三原則」を自分のものとしていた。

①想定にとらわれないこと。
②最善を尽くすこと。より高く、より早く。
③勇気を出して最初に避難する人間になること。



津波が襲った時刻で止まったままの時計

港の入り口には高さ30センチの水門

がそびえ、海と街との間を高さ16センチの防潮堤が取り巻き、高台に移転した学校の跡地には、2019年ラグビー・ワールドカップの会場造りが進められている。対岸の大槌町にも傷跡は残り、町長以下40名の職員が犠牲となった庁舎が存続問題に揺れながら時を止め当時のままの姿を残していた。

7年前この地であったことを私たちは忘れてはいけないし、学ぶこともある。そして、遠く離れていてもできることがあるはずだ。当時、災害支援にいち早く動いたのが、「民話の里・遠野市」である。震災前から「扇の要」としての役割を打ち出し、具体的に準備もしていたとのこと。熊本地震の際も、いち早く菊池市に駆けつけてサポートしていただいた。

「教育の力」だけでなく、「扇の要」としての自分の役割」は、豊かなまちづくりのために重要なキーワードになると考えさせられる研修旅行であった。

交流の絆 ～姉妹友好都市通信～ ②

問い合わせ先 市長公室 0968(25)7252

西郷隆盛が「菊池源吾」として過ごしたまち、龍郷町

NHK大河ドラマ「西郷どん」でも注目が高まる西郷隆盛は、1859年～1862年までの3年間、幕府から身を隠すため奄美大島の龍郷町に潜居していました。その際西郷は、「吾の源は菊池にあり」として「菊池源吾」と名前を変え、後に生まれた子どもたちに菊草(後の菊子)、菊次郎と命名。これは、菊池氏初代則隆の子である政隆が西郷太郎と称して始まった西郷家の歴史を踏まえ、自分が菊池一族の末裔であることを意識してのことであったといわれています。

西郷隆盛のつながりを縁に、菊池市は龍郷町と友好都市を締結し、相互に交流しています。



西郷隆盛(国立国会図書館蔵)



市民交流団が龍郷町を訪問

ふるさと緑の便り 菊池グリーンツーリズム

問い合わせ先 さいくふるさと水源交流館 0968(27)0102

フットパスに参加しませんか

地域に残るありのままの風景を楽しみながら歩くフットパス。菊池でも平成27年度に団体・個人が連携して「さいくちフットパス協議会」を発足し、健康づくりと地域のファンをつくる取り組みとして推進してきました。昨年度末から新たに2団体が加入し、協力団体も含め14団体で活動しています。

「初夏のフットパス体験会」

●水源コース この日だけの特別コースを予定しています。
とき 6月9日(土)
受付 午前9時30分
出発 午前10時
参加費 1200円(田舎料理と茶菓子付き)



コースを歩く参加者

自然を楽しみながら健康づくりができるフットパス。コースづくりを検討されている団体や個人の人は協議会までご相談ください。

「はいー」から菊池市消費生活センターですー! 52

問い合わせ先 菊池市消費生活センター 0968(36)9450
(月)～(金)午前10時～正午、午後1時～午後4時 福祉課

個人情報流出トラブルに注意!

公的機関の職員を装い、電話や自宅を訪問するなどして、「家族構成」や「勤務先」、「銀行の口座番号」などを聞き出そうとする悪質な事例が報告されています。さらに、「あなたの個人情報が漏れている。このままだと銀行口座が凍結される。代わりに手続きしてあげるのよ、費用を振り込むように」というような詐欺事例もありません。このような場合には、すぐに応答せず、公的機関の代表電話に電話して確認するか、警察や消費生活センターに相談してください。

者金融で借りれば良いと言われる、指示通りに身分・収入などを偽ってお金を借りたが、実際、説明とは異なり簡単にはもうからない。借金だけが残り、返済できないといった事例があります。

もうけ話をうのみにせず、「不必要な契約」は勇気を出してきっぱりと断りましょう。困ったときは、消費生活センターなどに相談しましょう。

消費者被害防止のために、出前講座も承っていますので、ぜひご利用ください。

相談を受け付けています

消費生活センターでは、専門の相談員が常駐しています。相談は無料です。電話相談も受け付けています。詳しくはお問い合わせください。

若者を狙うもうけ話に注意!

新生活において、身近な友人や先輩、SNSやサークルで知り合った人に、マルチ取引やもうけ話の勧誘をされることもあります。「お金がない」と断っても、消費



お電話したとたんお電話したとたん

わいふ一番館だより

問い合わせ先 わいふ一番館 0968(24)6630

【ギャラリー】

「素晴らしき阿蘇の大地」矢吹雄治郎

期間:6月19日(火)～7月8日(日)

阿蘇の大自然を中判カメラ67で撮影した全紙全倍計41枚を展示。四季の植物風景をご覧ください。



【まちかど資料館】

西郷どんと菊池一族 ～そのルーツを辿る～

期間:～7月31日(火)

料金:大人200円、小中学生100円

写真や絵画などを展示しませんか。

わいふ一番館ではギャラリーに作品を出展していただける人を募集しています。個人・団体は問いません。詳しくはわいふ一番館までお尋ねください。

開館時間 午前9時～午後5時

※休館日:月曜日(祝日の場合は翌日)